

絵画と写真の不思議な関係

今、さりげなく使っているスマホの画像。

実は、そこには1万数千年に及ぶ絵画と写真の行き来がありました。

「うつす」をめぐる長い長い物語。

1万4500年前

「人類最初の絵は、何のためだった？」

アルタミラ洞窟の壁画は、旧石器時代末期に描かれたとされる。

それは空腹を紛らわせるためか？ 食料になる動物を伝承するためか？

この世とあの世をつなぐ入口だったのか？ 理由はともかく、絵を描いた人がいました。

BC4世紀頃

「ピンホールの不思議」

ピンホール（鍵穴）から映し出された像は逆さまになる。撮影機能はありませんでしたが、カメラの基本的な原理は紀元前から、もう知られていました。

15世紀頃

「手描きで像を記録した」

カメラ・オブスキュラ（カメラⅡ部屋・オブスキュラⅡ暗い）

ピンホールに代えて、より明るい凸レンズを使い、壁や板に写った像を人が手描きでなぞっていました。

17世紀

「写真みたいな絵、できました」

レンブラントやフェルメールらの画家は、カメラ・オブスキュラを元に、精緻で明暗のコントラストのついた絵画を作っていたという説が有力です。

1826年

「今日を限りに絵画は死んだ」

（画家ポール・ドラローシユのため息）

カメラ・オブスキュラによる風景撮影に成功。露光時間…8時間

1839年

「写真が絵画の領域に踏み込んだ」

銀メッキした銅板を感光材料に使う「ダゲレオタイプ」が、最初の実用写真術として公開されました。露光時間…約30分

1841年

「焼き増しできるんです」ネガポジ法発明

1848年

「写真機日本初上陸！」

長崎の商人・上野俊之丞がオランダ人から写真機を入手しました。当時、写真は電信などと同様、最先端科学技術でした。

1851年

「幕末〜明治中期の代表的な撮影術」

日本で最初の実用的な写真技術になったコロデオン湿板写真が発明されました。露光時間…数秒〜数十秒

1857年

日本人が撮影した現存最古の写真、薩摩藩主・島津斉彬肖像

1871年

「アマチュア写真家急増」

ゼラチン乳剤によるガラス乾板が発明されました。露光時間…25分の1秒

1888年

「巻き取り式フィルムでカメラが小型化」

イーストマン・コダック社から巻き取り式フィルムが発売。カメラの小型化により一般に普及しました。

1935年

「カラーフィルム登場」

1948年

「インスタントカメラ（ポラロイドカメラ）登場」

1962年

「世界初のCGシステム登場」（米マサチューセッツ工科大「Ketch Pad System」）

2000年

「デジタル化で、カメラはコミュニケーションツールに」

携帯電話にカメラを搭載し写メールが始まりました。

2002年

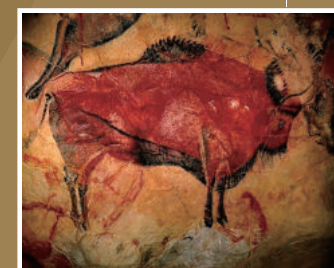
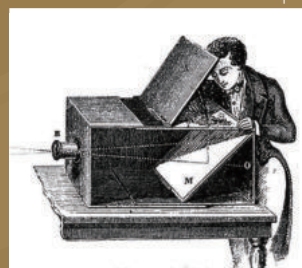
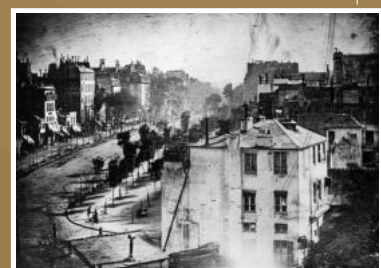
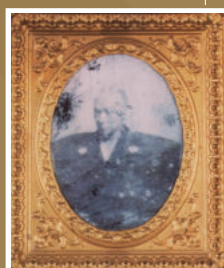
「フィルムと現像がなくなるんです」

デジタルカメラの売上げがフィルムカメラを追い抜きました。

2010年

「絵画感覚の画像処理」

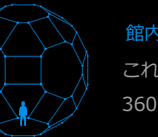
写真がつなぐインスタグラム（SNS）が始まりました。



館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <http://www.tcmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.